

VI-4

合同学習を進めるために

特別支援学級においては、障がいによる学習上又は生活上の困難を克服するため、一人一人の障がいの状態に応じた教育を受けることが前提となっています。その一方で、指導目標を達成する上で効果的な場合などに、障がいの種類や程度が異なる児童生徒が合同で学習を行ったり、学年別・能力別にグループを編制して学習を行ったりする際は、次の点について留意しながら取り組む必要があります。



特別支援学級に在籍する児童が、必要に応じて合同学習や学年別・能力別のグループで学習を行う際に、学級担任はどんなことを留意すべきですか？

合同学習や学年別・能力別のグループで学習を行う際に大切なことは、その学習のねらいを明確にすることです。

また、それぞれの特別支援学級担任は、児童一人一人の障がいの状態に応じて、指導目標や指導内容を個別に設定する必要があります。



合同学習や学年別・能力別のグループで学習を行う際に、児童生徒に配慮すべきことは、どのようなことですか？

合同学習や学年別・能力別のグループで学習を行う際は、一緒に学習する児童生徒の人間関係に配慮する必要があります。また、児童生徒のグループ編制を検討する際には、児童生徒が一緒に学習することで、学習効果が高まるようなグループ編制を心掛ける必要があります。



計画例

同じ教材を使用し、個々の実態に応じて指導目標や指導内容等を工夫した例

	自閉症・情緒障がい特別支援学級（児童A～C：3名）	知的障がい特別支援学級（児童D：1名）
単元名	買い物をしよう	
学年・教科等	第4学年・算数科	第6学年・生活単元学習 ※知的的生活科及び算数科（3段階）
目 標	・買い物に必要な代金を概算し、見積もることができる。	・100円玉、10円玉と1円玉を使って、代金を用意することができる。
過 程	学習内容	
導 入	○ はじめのあいさつをする。 ○ 前時の学習内容を確認する。 ・お楽しみ会の時に食べたいおやつや飲み物について、話し合った内容を振り返る。 ○ 本時の学習課題を確認する。	
展 開	おやつやの金額を調べて、代金を用意しよう。	
	（自閉症・情緒障がい特別支援学級） ○ 調べた金額の端数を四捨五入して、代金の概算を行う。 ※197+128+173のような加法を200+100+200とみて概算する場合があることを知る。	（知的障がい特別支援学級） ○ チラシを見て、買いたいおやつや飲み物の金額を調べる。 ○ 概算した代金の見積結果を基に、実際の硬貨を使い、買い物に行く際に必要な代金を用意する。

それぞれの学級の教育課程を基に、各教科及び指導形態の年間指導計画に、本単元を位置付けます。

本時の目標は、それぞれの学級ごとに設定します。

児童同士で関わり合いながら、同じ学習課題に取り組むなど、集団を形成し、学習効果を高めるようにします。

学級ごとに設定した本時の目標の達成に向けた学習内容を設定します。